

## 京都国立近代美術館 収集方針

京都国立近代美術館は、関西さらには西日本において近現代の美術・工芸を扱う中心的な機関として活動することを目的とし、地域性に目配りしつつも、日本の近現代美術史の核となる作品や、代表的作家の各時代における重要作品を積極的に収集している。さらに、世界における日本の美術・工芸の位置づけを常に考えることを旨とし、その影響関係に係る国外の近現代美術の収集にも取り組んでいる。

令和3年度の作品購入についても、以上の方針を踏襲し、多様なジャンルの作品を収集した。当館はこれまでも、アンリ・マティスの《JAZZ》をはじめ、重要な挿絵本を収集してきたが、今年度は特別購入予算により、20世紀アーティストブックの最重要作品であるソニア・ドローネー＝テルクとブレイズ・サンドラールの共作による《シベリア横断鉄道とフランスの小さなジャンヌのための散文詩》を収集することができた。また長年探し求めていた浅井忠による油彩画の代表作と、皇族に献上されたと考えられる赤塚自得の漆工作品の優品を購入し、コレクションの更なる充実化を図った。

展覧会開催と作品収集は密接な関係にあるが、今回購入した元田敬三と青山悟の作品は、令和元年度に開催した「ドレス・コード？」展への出品を、上野リチとキティ・リックスの作品は令和3年度に開催した「上野リチ」展への出品を契機に購入したものである。また、黒田辰秋作品については、今回の購入を契機に更なる調査を進め、令和6年度に大規模な回顧展開催を予定している。

## 京都国立近代美術館 美術作品購入一覧（令和3年度）



＝特別予算購入

1	種別：漆工 作者名：赤塚自得□(1871～1936) 作品名：桜蒔絵料紙硯箱 制作年：明治一大正 材質・形状：木胎、漆、銀、蒔絵 寸法：料紙箱：41.9×32.5×16.5(h)cm 硯箱：25.0×22.0×5.5(h)cm 解説：近代日本漆芸界の巨匠、赤塚自得が制作した夜桜を表した料紙箱及び硯箱。蓋裏には菊の御紋と風になびく藤袴（料紙箱）と女郎花（硯箱）が金銀蒔絵で表されている。塵居及び各面は、木胎の表面に銀板を張り付け、その上から黒漆、蒔絵を施すという特殊な制作法による。自得の新進の気質と高い技術力とが融合した傑作であり、蓋裏に施された菊の御紋が皇族に献上された作品であることを物語る。 取得額：38,500,000円 展示予定：2022年度第1回コレクション展（2022年3月18日～5月15日）で展示
2	種別：油彩画 作者名：浅井忠□(1856～1907) 作品名：御宿海岸 制作年：1897（明治30）年頃 材質・形状：額／油彩、画布 寸法：41.5×72.7cm 解説：明治の洋画家浅井忠が1896（明治29）年12月から翌年1月にかけて千葉の御宿村近辺に滞在した際の作品と考えられている。このとき同地には黒田清輝も滞在し、ともに過ごしたことが知られ、本作品における眩しい陽光の表現には黒田の外光派からの影響が窺えるとの指摘もある。永らく存在のみ知られながら行方不明だった作品であり、明治洋画の最重要人物でありながら現存する点数の乏しい彼の油彩画の、希少な作例である。 取得額：30,000,000円 展示予定：2021年度第3回コレクション展（2021年9月2日～11月7日）「明治の光景」において公開 今後もコレクション展において活用予定
3	種別：その他 作者名：フェリーツェ・[リチ]・上野＝リックス□(1893～1967) 作品名：（無題） 制作年：1935（昭和10）年頃 材質・形状：二曲一隻屏風／グアッシュ、金銀箔、紙 寸法：148.0×138.0cm 解説：上野リチによる極めて珍しい本画作品であり、二曲一隻という屏風の形状をしている点も他に全く類例を見ない。金銀箔が貼られた屏風の上に、リチ自身がグアッシュなどで、木々や花々そして鳥たちに彩られた「楽園」を描出している。夫の伊三郎とともに、室内装飾デザインを手がけたリチが、ウィーン工房で培った感覚と日本の伝統的な形式を融合しようとした意欲作である。 取得額：6,462,500円 展示予定：「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展（2021年11月16日～2022年1月16日：京都国立近代美術館、2022年2月18日～5月15日：三菱一号館美術館）に出品

4		<p>種 別 : その他</p> <p>作 者 名 : ソニア・ドローネー＝テルク (画・装丁) (1885～1979) / 詩文 : プレーズ・サンドラール (詩文) (1887～1961)</p> <p>作 品 名 : シベリア横断鉄道とフランスの小さなジャンヌのための散文詩</p> <p>制 作 年 : 1913 (大正2) 年</p> <p>材 質・形 状 : ブックレット (蛇腹式) / 水彩 (型紙による彩色)、エンボス印刷、和紙、油彩、模造羊皮紙、金属</p> <p>寸 法 : 199.0×35.5 (折畳時: 19.0×11.0) cm</p> <p>解 説 : 絵画と文学をハイブリッドに結びつけた20世紀アートブックの最重要作品のひとつ。サンドラールの散文詩が複数の異なるフォントで印刷され、左側にはそれに併走するように、型紙を用いてソニアが描いた色鮮やかな幾何学的抽象的イメージが広がる。テキストとイメージが示すこの旅路を、財布ほどの大きさに折り畳まれているブックレットを広げるという行為を通して、鑑賞者が身体的にも追体験できるよう工夫された本作品を、作者二人はテキストと造形イメージを同時に鑑賞することができる「最初の同時性的書籍 (simultaneous book)」と呼んだ。</p> <p>取 得 額 : 60,500,000円</p> <p>展 示 予 定 : 2021年度第5回コレクション展 (2022年1月20日～3月13日) の「劉生が生きた時代の西洋美術」コーナーで展示</p>
5		<p>種 別 : 漆工</p> <p>作 者 名 : 黒田辰秋□(1904～1982)</p> <p>作 品 名 : 朱蔞粉塗鹿花文文庫</p> <p>制 作 年 : 1925 (大正14) 年</p> <p>材 質・形 状 : 漆</p> <p>寸 法 : 14.0(h)×43.7×28.8cm</p> <p>解 説 : 日本を代表する木漆芸家で重要無形文化財 (木工芸) 保持者の黒田辰秋の作品。黒田のパロトンであり、京都の老舗ベーカリーとして知られる進々堂の創業者の續木斉の旧蔵品。蓋表には花唐草文に囲まれた窓の中に一頭の鹿と花の図柄が表され、側面には菓子の木型からとられたような花文が連続して施された装飾性にあふれた黒田初期の代表作。白洲正子編集『黒田辰秋 人と作品』収録作品でこれまでに度々紹介されてきた名品である。</p> <p>取 得 額 : 2,000,000円</p> <p>展 示 予 定 : 2024年度に開催予定の黒田辰秋の回顧展で使用</p>
6		<p>種 別 : 漆工</p> <p>作 者 名 : 黒田辰秋□(1904～1982)</p> <p>作 品 名 : 螺鈿唐花文座卓</p> <p>制 作 年 : 1926 (大正15) 年</p> <p>材 質・形 状 : 漆、螺鈿</p> <p>寸 法 : 33.6(h)×139.5×82.0cm</p> <p>解 説 : 日本を代表する木漆芸家で重要無形文化財 (木工芸) 保持者の黒田辰秋の作品。黒田のパロトンであり、京都の老舗ベーカリーとして知られる進々堂の創業者の續木斉の旧蔵品。朱塗りの天板の周囲を二種の唐花が交互に配された赤地に貝の白さが映える優品。天板以外は黒漆で仕上げられており、赤と黒の対比も見事である。また、脚の造形は矛に籠をとったような独特の形状となっている。白洲正子編集『黒田辰秋 人と作品』収録作品。</p> <p>取 得 額 : 2,000,000円</p> <p>展 示 予 定 : 2024年度に開催予定の黒田辰秋の回顧展で使用</p>
7		<p>種 別 : 漆工</p> <p>作 者 名 : 黒田辰秋□(1904～1982)</p> <p>作 品 名 : 螺鈿象嵌菖蒲紋様手箱</p> <p>制 作 年 : 1938 (昭和13) 年</p> <p>材 質・形 状 : 漆、螺鈿</p> <p>寸 法 : 18.0(h)×28.0×14.4cm</p> <p>解 説 : 日本を代表する木漆芸家で重要無形文化財 (木工芸) 保持者の黒田辰秋の作品。民芸運動のパロトンであり、京都の絞り染め問屋「上田善」を創業した上田善一郎の旧蔵品。具象的なモチーフをあまり残さなかった黒田にしては珍しく水辺の菖蒲の群生が螺鈿で表現されている。朝鮮王朝の漆器を手本としたものであり、黒田の幅広い研究成果がどのように作品に生かされているかを窺うことができる。白洲正子編集『黒田辰秋 人と作品』収録作品。</p> <p>取 得 額 : 3,400,000円</p> <p>展 示 予 定 : 2024年度に開催予定の黒田辰秋の回顧展で使用</p>

8	種別 : 漆工 作者名 : 黒田辰秋□(1904～1982) 作品名 : 赤漆卍文飾筐 制作年 : 1955 (昭和30) 年 材質・形状 : 漆 寸法 : 10.5(h)×26.7×17.0cm 解説 : 日本を代表する木漆芸家で重要無形文化財(木工芸)保持者の黒田辰秋の作品。民芸運動のパロトンであり、京都の絞り染め問屋「上田善」を創業した上田善一郎の旧蔵品。角に丸みを帯びた器形の蓋部中央に渦状の卍の模様を大胆に彫り込み、鮮やかな赤漆で仕上げられた本作は、戦後、ますます造形に力強さが加わっていく黒田の表現的特徴をよく示す優品である。白洲正子編集『黒田辰秋 人と作品』収録作品。 取得額 : 3,400,000円 展示予定 : 2024年度に開催予定の黒田辰秋の回顧展で使用
9	種別 : 木工 作者名 : 黒田辰秋□(1904～1982) 作品名 : 拭漆櫨飾棚 制作年 : 1961 (昭和36) 年 材質・形状 : 櫨、漆 寸法 : 111.5(h)×101.5×67.5cm 解説 : 日本を代表する木漆芸家で重要無形文化財(木工芸)保持者の黒田辰秋の作品。民芸運動のパロトンであり、京都の絞り染め問屋「上田善」を創業した上田善一郎の旧蔵品。残念ながら現在は中天板に割れが生じており修繕が必要ではあるが、黒田らしい櫨の木目を生かした飾棚。一般的な黒田の飾棚とは異なり、横長の形状でないことから、重厚さの中にスマートな印象である。白洲正子編集『黒田辰秋 人と作品』収録作品。 取得額 : 2,000,000円 展示予定 : 2024年度に開催予定の黒田辰秋の回顧展で使用
他14点／計23点 購入総額 : 152,947,570円	